冬

樟

展

令和二年度

第百二十六回

京都大学書道部

無料でオンライン開催！



日時　12月19日（土）

12月20日（日）

Twitter：@kucc_E201

Instagram：ku_shodobu2020

HP：http://kushodo.club/

京都大学書道部

606-8317 京都市左京区吉田本町

Email: info@kshodobu.sakura.ne.jp

案内不要の際はご連絡ください

巻頭に寄せて

水は温度によって氷、水、水蒸気へと形が変化します。
可愛らしいタンポポ、華やかなヒマワリ、澄んだ空に似合うコスモス、そして寒さの中で存在感を示すコウテイダリア。これら全てキク科の花です。
キリンの首（頸椎）の骨の数は、人間と同じく七本で、これは哺乳類のほとんどに共通しています。

一体何の話をしているのかと思われてしまいそうですが、私が述べたいのはつまり、
「一見全く違うように見えても、それらは同じ規則を守っている
逆に言えば、共通ルールがあっても様々な変化が見られる」
ということです。

書道で考えてみましょう。
このパンフレットの適当なページを開いて作品を眺めてみてください。
どうでしょうか。全て文字を書いた作品ですが、作品によって印象や雰囲気などの違いを感じていただけたでしょうか。
書道とは基本的に文字を書くことであり、文字は全て線と点の組合せで出来ています。したがって作品ごとの印象の違いは、突き詰めればその人が書く線の違いと言い換えられます。
一つの作品について文字ごとの線を見てみますと、太い線と細い線、直線と曲線、墨の滲みや擦れを生かした線…。統一感のある作品であっても、そこには全く同じ線は無いと言っていいでしょう。

複数の作品を見て感じる多様性、一つの作品から受ける印象、そして近づいて見て初めて分かる線の違い―私が書道に対して興味深いと考えるのは、書く人によって雰囲気の違いが感じられるのはもちろん、一つの作品の中でも線質の違いに面白さを見出せることです。書道が手書きであるゆえに、その一回でしか表せない線に美しさを感じるのです。

今の時代は特に個性や多様性を尊重する意見が多くなっていますが、「手書きの字」も個性の一つではないかと私は思います。誰しもが、その人でしか生み出せない書を持っているのです。各々の線とそれらが織りなす作品全体から、部員たちの個性を少しでも感じてもらえればと思います。

最後になりますが、今回は例年とは異なる形式での書展となります。しかしながら無事に開催できるのは、顧問の成田先生と行友三輪子様、技術顧問の寺本先生をはじめとする多くの方々のご支援によるものであり、この場をお借りして心より感謝申し上げます。
そして、皆さま本日は第百二十六回冬樟展の作品を見に来てくださり、誠にありがとうございます。部員一人一人が思いを込めて書いた作品を、どうぞごゆっくりとご覧になってください。

令和二年十二月吉日

京都大学書道部　部長　乾未樹

オンラインでお手本を探そう！

行友　三輪子（書道部 OG・京都大学附属図書館図書館企画掛主任）

最近よく見かけるアマビエ。その原画は京都大学附属図書館が所蔵しており、「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」（以下、「RMDA」）で見ることができます。

https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00000122（「新聞文庫・絵」84コマ目）

RMDA で見られるのは、アマビエや古い本だけではありません。書道関係の貴重資料も公開しています。コロナ禍で書店や図書館に足を運びにくいなら、オンラインでお手本を探してみませんか？以下、私のお薦めをご紹介します。

『金石集帖・續帖』

https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/collection/kinseki

朝鮮全土の碑文を集めた、最大級のコレクション（現存 219 冊）。中国の王羲之や顔真卿の集字碑もあり。鋭い刻跡や石の質感まで伝わる高精細な画像です。篆書や楷書のお手本にどうぞ。

「維新特別資料文庫」

https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/collection/ishin/letcal

幕末から明治維新までの勤皇志士関係資料です。サブコレクション「書簡・遺墨」には、伊藤博文、西郷隆盛、木戸孝允等の作あり。幕末好き必見です！

『中院道茂七十賀歌短冊帖』

https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00007162

箔打ちされた台紙に打曇の料紙が目にも鮮やかです。表具や仮名の参考にもなります。

『中庸』

https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00007912

旧国宝、現在は重要文化財指定。南北朝時代の写本で、書作品として書かれたものではありませんが、特に序は堂々たる風格があります。

さて、本文のお手本が見つかったら、次は落款印ですね。RMDA からも印影を提供している、国文学研究資料館「蔵書印データベース」が参考になります。

トップページ

http://base1.nijl.ac.jp/~collectors_seal/

検索画面

http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/G0038791ZSI

全国の図書館の所蔵資料に捺された蔵書印等をデータベース化したもので、蔵書印の文字や所有者をキーワードにして印影を検索できます。

RMDA で「掛軸」や「拓本」で検索すると、まだまだ多くの作品がヒットします。ぜひ貴方のお気に入りを見つけてください。

最近の調和体について

寺本蒼玄（京都大学書道部技術顧問）

近頃の公募展や書展において、よく見られるようになった漢字仮名交りの作品（以後調和体）。普段私達が話している言葉が作品となり、表現されています。これらの作品は漢字や仮名の作品に比べて、「読める」と言うメリットを持っています。書展の会場に入っても、解説を見ても、作品が読めないもどかしさがよく見うけられます。

三十年ぐらい前に、村上三島先生が普通に一般の方が読めて楽しめる書展をめざして、「調和体」という部門をつくり直して、読める楽しさを味わえる作品を書いてみようと書家の方々に提言されました。

以来

・中学生でも読めるやさしい文字。
・漢字は楷書と行書。仮名は変体仮名は使わない。
・平仮名の連綿は二字まで。
・散らし書きは多用しないように。
・長い文章はできるだけ避けましょう。

等をお決めになりました。

京大書道部の作品にも、調和体を書いた作品がよく見られますが、短い文章（例えば、ことわざや俳句、短歌や和歌）の読み易い文章を書いて下さい。

奇抜な構成や文字の大・小、潤滑の表現等、そういうものに走らず、読めると言うことを重視して作品を創ってみては如何でしょうか。期待しています。

作品制作の方法——臨書と創作

書作品を作る方法には、臨書と創作の二つがあります。

臨書

歴史上の優れた書の古典を手本として、それをまねて書くことを臨書といいます。書道の学習で最も基本となる方法で、伝統的には次の三つの段階を踏むのがよいとされます。

(1)**形臨**　文字の形や筆づかいを似せて書くことです。古典をよく観察し、できるだけ古典に近づけて書くことが学習の出発点となります。

(2)**意臨**　形にこだわらず、古典の雰囲気や精神を汲み取って書くことです。意臨が重視されるのは、形だけを追っていると時に筆運びのリズムが失われ、浅い印象の書になってしまうことがあるからです。また、古典の中には模本（敷き写し）や拓本（石に刻し、それを墨で写し取ったもの）だけが残り、元の姿が伝わっていないものもあります。そのようなものを臨書する際には、想像力を働かせて書くことが必要です。

(3)**背臨**　古典を見ずに、記憶を頼りに再現して書くことです。古典をいかに観察し、理解しているかが問われます。

形臨、意臨、背臨と進むにつれて、臨書には書き手の個性が強く現れるようになります。臨書は単なる模倣ではなく、ひとつの表現方法なのです。臨書作品は、そのような学習の成果を作品として形にし、発表するものです。

＊

臨書の対象となる古典を法帖ということもあります。はじめから芸術作品として制作されたものもあれば、石碑や手紙、文章の下書きなど、実用的な目的で書かれたものもあります。

京大書道部の書展では、臨書作品のそばに臨書した部分の法帖を掲示しています。ぜひ作品と見比べてご覧ください。

創作

臨書に対して、自分が表現したい言葉を書くことを創作といいます。

自分で考えた言葉を書くこともあれば、漢詩や漢文、和歌や俳句、詩や短歌、歌詞などに題材を求めることもあります。

作品の構成や書体・書風は、選んだ言葉を最もよく表現できるように考えて工夫します。臨書の学習を生かし、古典の表現方法を取り入れると、作品に深みと味わいを出すことができます。

やみくもに言葉を書くのではなく、自らの感動や思いを言葉に託し、それに合った表現の方法を探して書くのが創作作品です。

作品の構成——印と落款

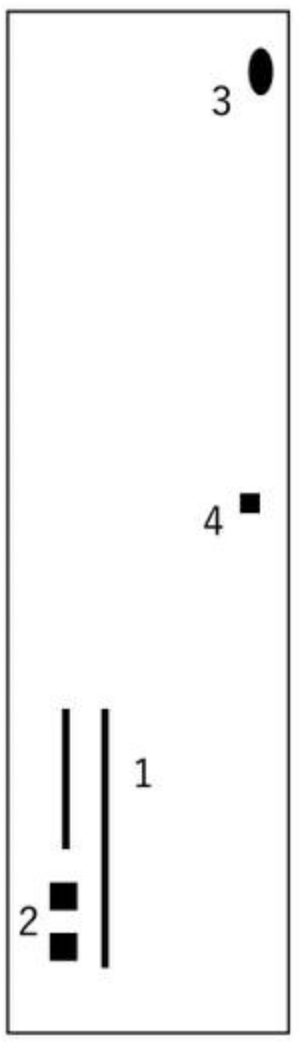
書作品の紙面は本文のほか、いくつかの要素からなっています。

落款

作品の末尾に書く署名とそれに続けて押す印のことです。名前のほか、語句の出典や臨書した古典の名、制作した時間や場所を書くこともあります。

印の種類

落款印以外にも、作品の右上（冒頭部分）に押す引首印や、自由な位置に押す遊印があります。また印は刻り方によって、文字の線を刻った白文印と、文字の線以外の部分を刻った朱文印に分けられます。



1 落款
2 落款印
3 引首印
4 遊印

書体について

書作品のジャンルは、使う文字によって漢字・仮名・漢字仮名交じりなどに分けることができます。漢字の書体には篆書・隷書・楷書・行書・草書の五つがあり、篆書から隷書が、隷書から草書・行書・楷書が生まれたとされています。同じ書体でも、書風（文字のもつ雰囲気）は作品によってさまざまです。



楷書

一点一画を続けずに離して書く書体で、起筆・送筆・収筆の筆づかいがはっきりしているのが特徴です。南北朝時代から発展し、唐代に完成しました。整った美しさをもつ書体です。



行書

曲線的で柔らかい運筆により、点画を続けて書く書体です。楷書に近いものから草書に近いものまでくずし方の程度はさまざまで、行書と草書を交えて書く行草書による作品もあります。



草書

行書よりもさらに大胆な簡略化が行われている書体で、楷書や行書とは字形が大きく違っている場合もありますが、くずし方には一定の規則があり筆運びのリズム感が魅力です。



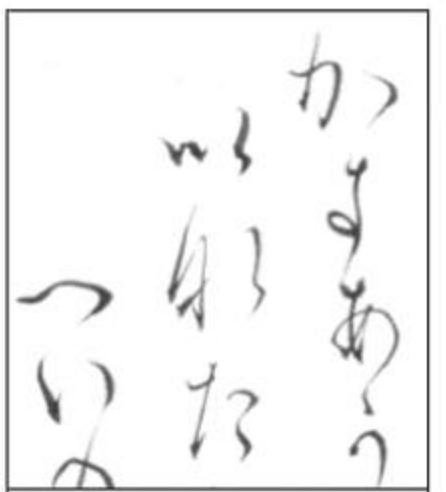
隷書

楷書が成立する以前、漢代に公式な書体として用いられました。扁平な字形と水平な横画、画の終わりに現れる「波磔」の筆づかいなどが特徴で、古風な魅力があります。お札に使われている書体です。



木簡

木簡とは、紙が発明される以前の、木に書かれた書物のことです。時代がかなり古く、隷書や篆書もこの木簡に書かれる中で発展していったといわれています。斬新な書き方がみられるのも特徴です。



仮名の書

書道では主に平安時代のひらがなの書を指します。連綿（続け書き）や散らし書きによる繊細で流麗な表現は漢字の書にない特色です。今のひらがなとは異なる文字（変体仮名）も使われます。



漢字仮名交じりの書

戦後になって普及したジャンルで、「近代詩文書」「調和体」と呼ばれることもあります。詩・短歌・俳句といった文学作品や歌の歌詞など、身近な題材で表現できるのが魅力です。

書家説明

文責：豊留まり

◎中国

＜唐代＞

唐の第二代の皇帝で、「貞観の治」でも有名な**太宗**の元、初唐三代家として知られる**欧陽詢・虞世南・褚遂良**が輩出された。欧陽詢は「トン・スー・トン」という三折法を生み出し、より刻法に近い書体を確立したことでも知られる。また盛唐～中唐期辺りの書家として、忠臣で有名な**顔真卿**や僧の**懐素**らがいる。人間性や感情が滲み出るような顔真卿の書風は、宋代の「意」を表す書に繋がっていった。

太宗：三折法を交えながらも**王羲之**の二折古法を中心とした書きぶり。（鈴木『晋祠銘』）

欧陽詢：緊張感を感じさせる縦長で引き締まった字形が特徴。（乾『仲尼夢奠帖』）

褚遂良：線の太細や抑揚の変化が美しい。（大橋明『楷書千字文』）

顔真卿：楷書と異なり、草稿感のある行草書は一貫して評価が高い。（近藤『争坐位文稿』）

懐素：**張旭**による狂草の表現の幅を拡張した。劇的な展開が印象的。（内田『草書千字文』）

＜宋代＞

宋代の能書家として有名なのは、**蘇軾・黄庭堅・米芾**の三人である。蘇軾や黄庭堅は高級官僚ながら何度も左遷されるという波乱の生涯を送った人物で、政治的挫折の中から人間的意識が涵養された書が生み出された。一方米芾は数々の逸話が残されるほど奇行の多い人物として知られ、潔癖性だったともいわれるだけあって、臨模に長けている。

蘇軾：左下へ流れるような展開や、扁平で下ぶくれな文字が特徴的。

黄庭堅：左に伸びる横画、長く伸びる払い、多折法が特徴。（豊永『松風閣詩巻』）

＜明末清初・清＞

明末清初の時期、従来の巻子形式ではなく長条幅の形式で、初めから終わりまで一筆書きで書かれたような線状の印象を持った作品が多く登場した。**張瑞図**や**傅山**らはこうした作品の担い手であり、作品には一人一人の個性が溢れている。清・乾隆期には**金農**などによる隷書作品が目立つようになった。同じく隷書で著名な**楊峴**は清後期の人物である。

張瑞図：筆尖が紙に対して切り込み、削るように進む。（秋友『王無功答馮子華処士書』）

傅山：狂草を基本とした自由闊達な書風。（乗杉『古詩十九首』安田『野花如雪七言詩軸』）

金農：図版のような隷書、横画の震えなどが特徴的。（栗原『金冬心隷書冊』）

楊峴：６０歳頃以降の作品に見られる、強烈に誇張した波磔が有名。（益満『漢陳文範碑』坂崎『古四種巻』）

◎日本

奈良時代は中国の書を丁寧にまねることが中心で、**光明皇后**は聖武天皇から受け取った王羲之の書を手本に学んだとされる。平安時代になると**空海**ら三筆が登場し、雑体書などに日本の独自色が徐々に見られ始め、**小野道風**ら三蹟の時代には、女手の要素が漢字の書きぶりに取り入れられ、和様と呼ばれる日本漢字の書が生まれた。

光明皇后：日本書に類を見ない強靭な起筆と終筆が特徴。（大西・小林『楽毅論』）

小野道風：「s」字を横にしたような三折法くずしの先駆者。（大橋葵『屏風土代』）

【参考文献】

石川九楊『書家１０１』,芸術新聞社『中国書道史の 10 人』

書道専門店　大阪教材社「楊峴という書家」https://www.osakakyouzai.com/osaka_kyouzai/?p=3755

作品一覧

技術顧問

寺本蒼玄　創作・『讀書偏愛夜長時』……9　9

創作・『無私覆』……9

一回生

大西沙穂　臨書・光明皇后『楽毅論』……11　11

戸髙海　創作・『蘇軾詩』……18　18

乗杉玲壽　臨書・傅山『古詩十九首』……10　10

二回生

乾未樹　臨書・欧陽詢『仲尼夢奠帖』……12　12

大橋明日香　臨書・褚遂良『楷書千字文』……10　10

栗原瑞樹　臨書・金農『金冬心隷書冊』……19　19

近藤毅　臨書・顔真卿『争坐位文稿』……13　13

鈴木翔子　臨書・唐太宗『晋祠銘』……13　13

関美乃　創作・『碧流飛白鳥』……13　13

豊留まり　臨書・尉史堅『掾潭』……20　20

益満朋佳　臨書・楊峴『漢陳文範碑』……19　19

三回生

秋友祥香　臨書・張瑞図『王無功答馮子華処士書』……11　11

穴田小恵　創作・『笑うように生きる』……21　21

内田鈴菜　臨書・懐素『草書千字文』……18　18

坂崎亜実　臨書・楊峴『古四種巻』……20　20

柴田達哉　創作・『九辯』……9　9

豊永嵩晴　臨書・黄庭堅『松風閣詩巻』……14　14

渡部裕貴　臨書・作者不詳『馬振拜造像記』……10　10

四回生

市川拓真　創作・『清風高節』……19　19

鵜川大輝　創作・『四言詩　贈秀才入軍より』……16　16

大橋葵　臨書・小野道風『屏風土代』……14　14

坂本和歌子　創作・『博學而篤志』……17　17

中林亮　創作・李白詩『独坐敬亭山』……11　11

松尾有輝也　創作・『岐阜竹枝一節』……17　17

安田直記　臨書・傅山『野花如雪七言詩軸』……18　18

吉田凌祐　創作・『冬景色』……22　22

創作・『和漢味比べ』……22　22

修士一回生

覚道直治　創作・『満庭芳　小春』……16　16

修士二回生

阿部朱夏　創作・『Cocoa』……21　21

小林由佳　臨書・光明皇后『楽毅論』……10　10

平野晶子　臨書・王献之『地黄湯帖』……15　15

合作

勝野初紀／中村勇真　創作・『静動』……22　22

作品紹介

賛助作品

技術顧問　寺本蒼玄　先生

『讀書偏愛夜長時』

読書偏に愛す夜の長き時。

冬の夜長は最も読書の好時節である。

淡々と清々しく仕上げる為清の趙之謙風に書いてみました。



『無私覆』（禮記）

私覆無し

天に私覆無し。天道は公平であること。

軽やかさを表現する為に清代何氏貞風に仕上げました。

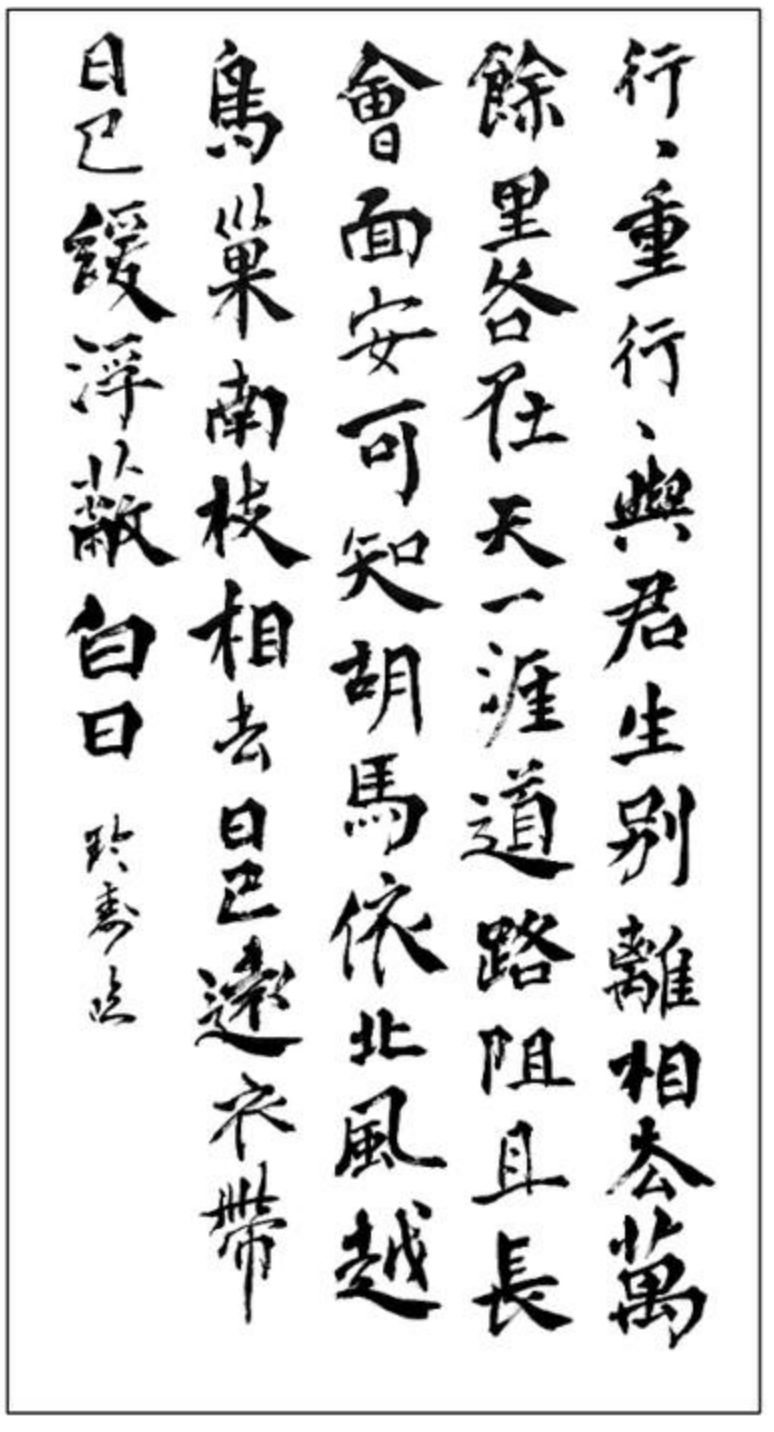


1

乗杉玲壽　一回生
臨書　楷行書　傅山『古詩十九首』　全紙

「行行重行行與君生別離相去萬餘里各在天一涯道路阻且長會面安可知胡馬依北風越鳥巢南枝相去日已遠衣帯日已緩浮雲蔽白日」

見るのは珍しいかもしれない、傅山の楷行書を臨書しました。変化に富んだ構成でまとめるのが難しかったです。機会があれば是非原典をみていただきたい作品です。



2

大橋明日香　二回生
臨書　楷書　褚遂良『楷書千字文』　半切

「交友投分切磨箴規仁慈隠惻造次」

夏から書いているのでみましたがこの法帖は得意じゃないです。



3

渡部裕貴　三回生
臨書　楷書　『馬振拝造像記』　半切

「董道歓路平高羅」

コロナヴァイラスのせいで様々なイヴェントが中止になってしまってかなしいですね。

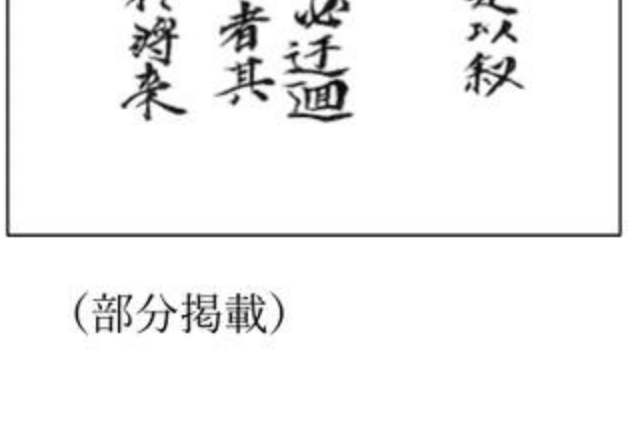


4

小林由佳　修士二回生
臨書　楷書　光明皇后『楽毅論』　巻子

「樂毅論夏候泰初/世人(多)以樂毅不時拔莒卽墨爲劣。是以叙而/論之。/夫求古賢之意。宜以大者遠者先之。必迂廻/而難通。然後已焉可也。今樂氏之趣。……（略）」

学部一回生の冬樟展と同じ古典に五年越しに取り組み、書道部での出来事を思い出しながら書きました。様々な変化が求められるこの頃ですが、京大書道部が末永く部員の居場所として続いていくことを願っています。



（部分掲載）

5

中林亮　四回生

創作　楷書　李白詩『独坐敬亭山』　半切二分の一

「衆鳥高飛盡。孤雲去獨閒。相看雨不厭。只有敬亭山。」四年間、楷書ばかり書いていたような気がします。



6

大西沙穂　一回生

臨書　楷書　光明皇后『楽毅論』　半紙

「而して多く之を劣れりとするは」

高校生のときに一度書いたことがあったのでもう一度チャレンジしてみました。筆使いが独特で書いていて楽しかったです。



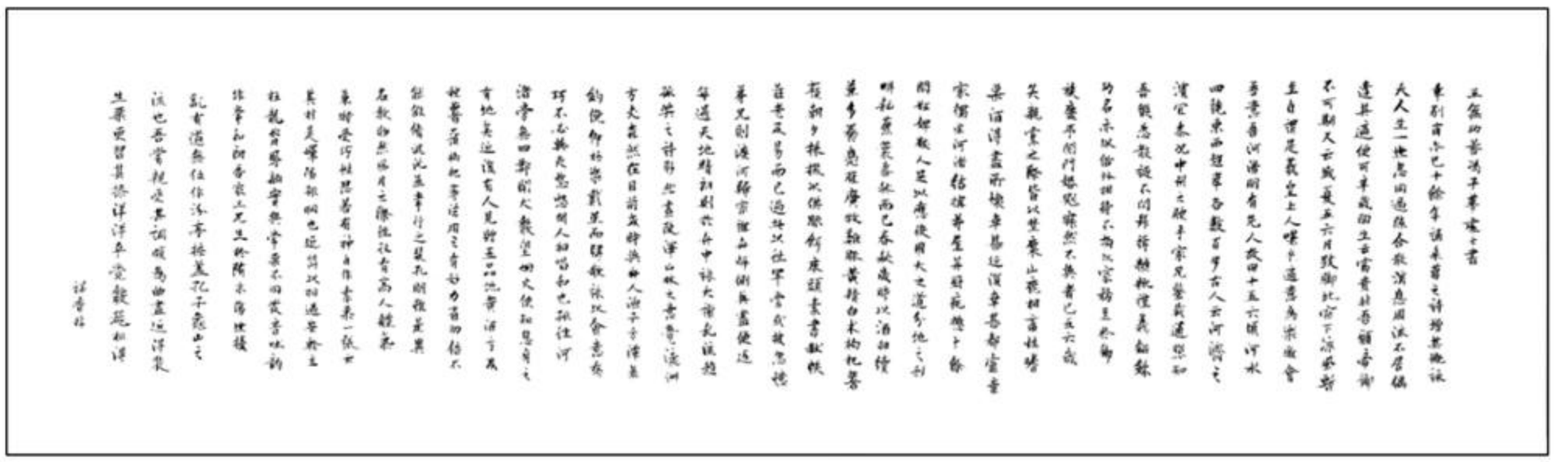
7

秋友祥香　三回生

臨書　楷書　張瑞図『王無功答馮子華処士書』　巻子

「王無功答馮子華処士書 乖別甫爾已十餘年誦采葛之詩増其慨詠夫人生一世忽同過隙合散消息周流不居偶逢其適便可卒歳。……（略）」

巻子作品というものを書いてみたかったのです。




仲尼夢奠七十有二周年九齢俱不
滿百彭祖資以導養樊重任性裁
過盈数終歸冥滅無有得停住者


未有生而不老而不死形歸丘墓
神還所受痛妻辛酸何可勘念善
惡報應如影隨形必不差二

乾未樹

乾未樹　二回生

臨書　行書　欧陽詢『仲尼夢奠帖』　二尺×六尺　二連

「仲尼夢奠、七十有二。周王九齢。倶不満百、彭祖資以導養、樊重任性、裁過盈数、終歸冥滅、無有得停住者。未有生而不老、老而不死。形歸丘墓、神還所受。痛毒辛酸、何可熟念。善悪報應、如影随形、必不差二。」

楷書で有名な欧陽詢の、数少ない行書作品です。躍動感と計算された空間のバランスに惹かれたのですが、自分で書くのは難しかったです。精進します。

9

近藤毅　二回生
臨書　行書　顔真卿『争坐位文稿』　全紙



「蓋太上有立徳。其次有立功。是之謂不朽。抑又聞之。端揆者百寮之師長。諸侯王者人臣之極地。今僕」

テストの忙しさに追われる毎日ですが、筆をとっている時間は流れがゆっくりなような気がします。筆を置いた途端勉強の進んでいない具合に絶望します。

10

鈴木翔子　二回生
臨書　行書　唐太宗『晋祠銘』　半切



「傳芳之跡斯在惟神誕靈周室降徳」

オンライン合宿で書いた作品です。

11

関美乃　二回生
創作　行書　『碧流飛白鳥』　半切二分の一



「碧流白鳥を飛ばす」

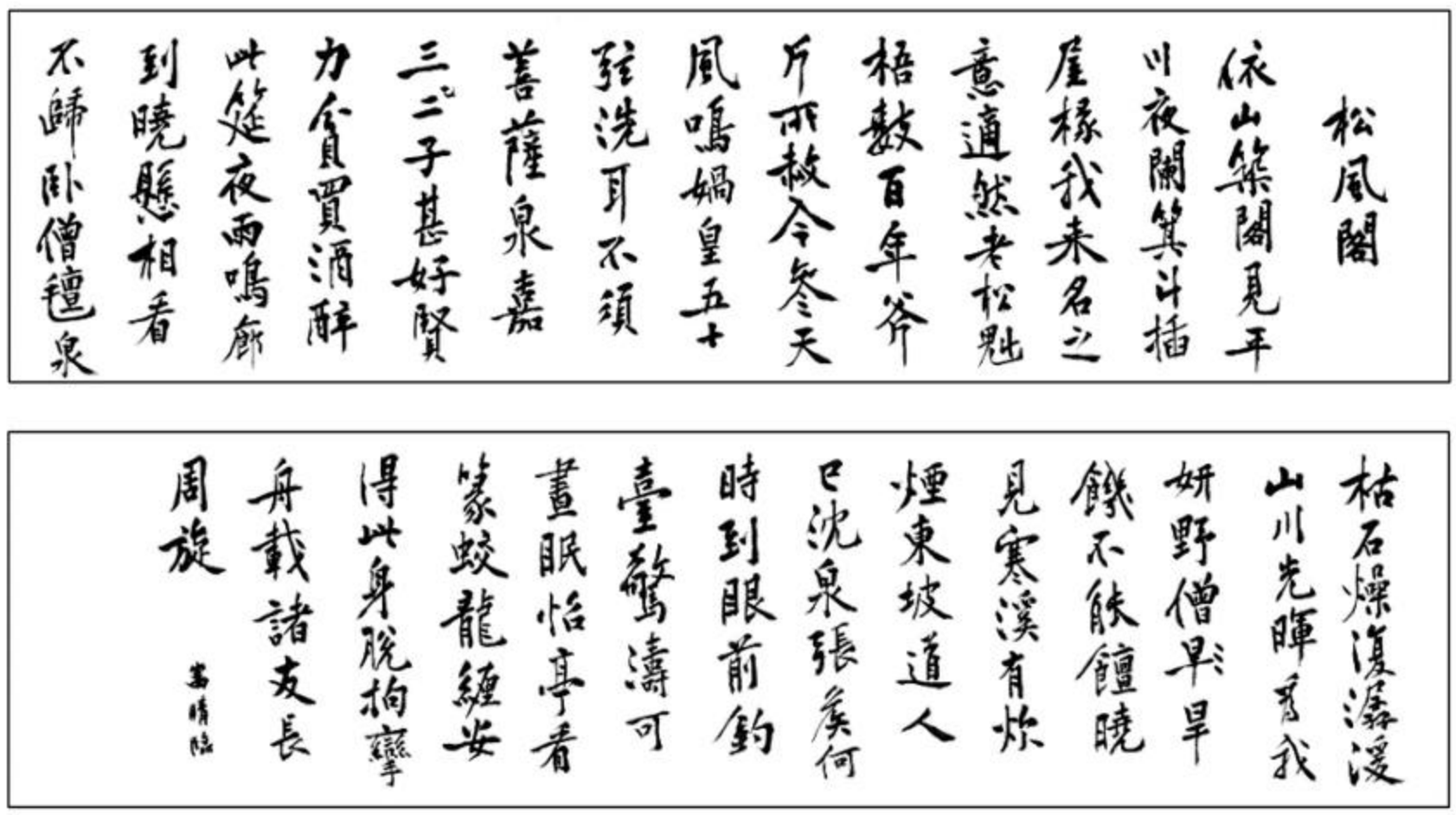
北海道に行きたいです。

12　豊永嵩晴　三回生

臨書　行書　黄庭堅『松風閣詩巻』　巻子

「松風閣　依山築閣見平川夜……（略）……周旋」

時間と心にゆとりを持って書くことが大切ですね。（無計画なスケジューリングに定評のある私）



13　大橋葵　四回生

臨書　行書　小野道風『屏風土代』　巻子

「春日山居

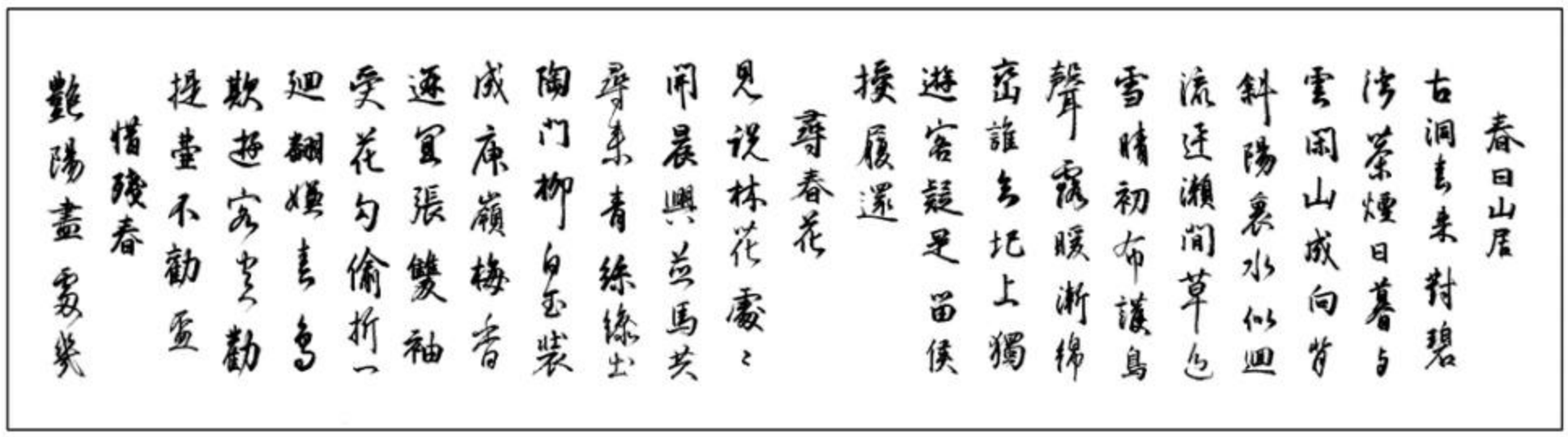
古洞春来対碧湾　茶煙日暮与雲閑

山成向背斜陽裏　水似廻流迅瀬間

……（略）」

京大書道部の一員としては最後の作品、卒業制作です。入学以来四年間、なんだかんだ楽しんで作品制作をしてきたのを思い出しながら書きました。色々な作品を見たり書いたりする中で見つけた、自分が一番楽しめるのが横作品、巻子作品だと気付いたので、最後も巻子です。

書道を、書道部を楽しんできたことが伝わればば幸いです。



（部分掲載）

14

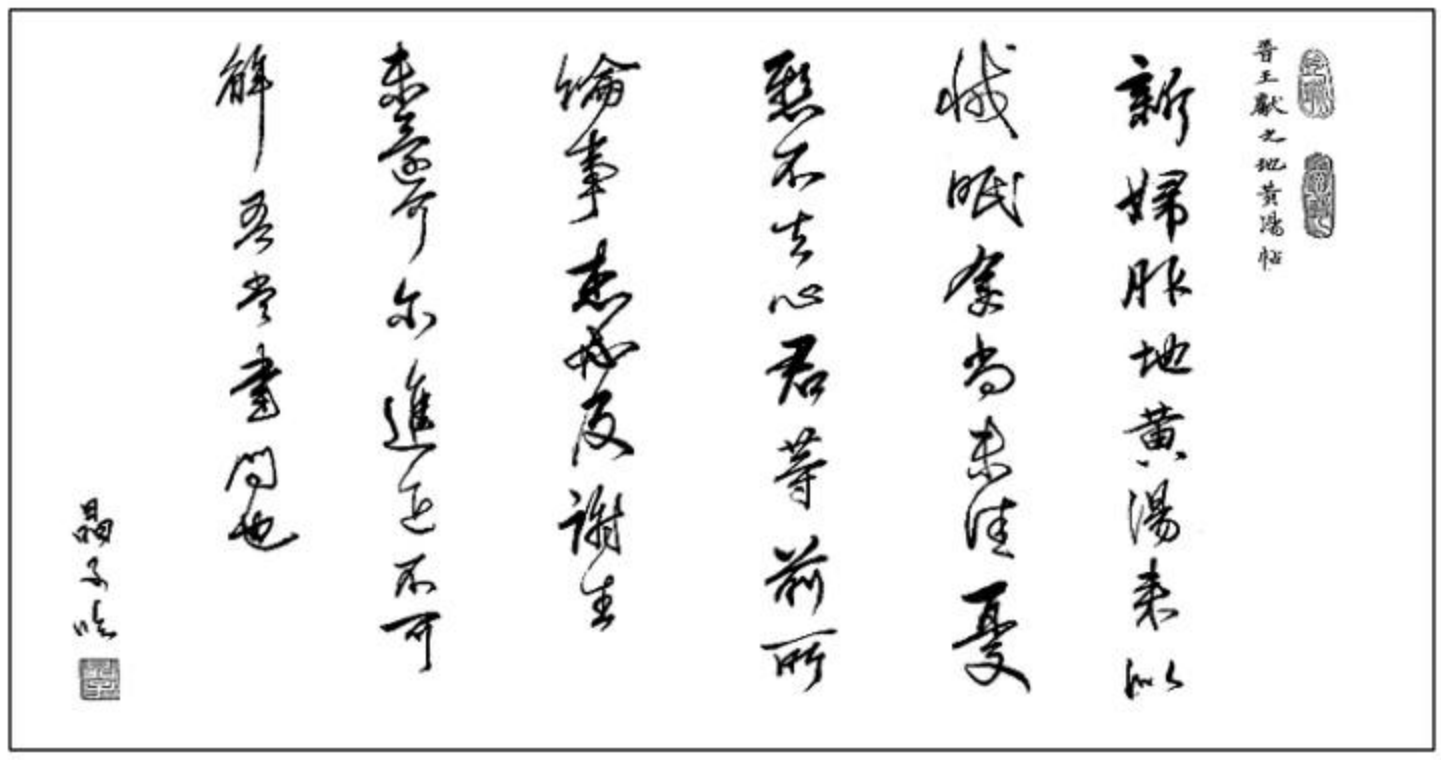
平野晶子　修士二回生

臨書　行書　王献之『地黄湯帖』　巻子

「新婦服地黄湯来似減眠食尚未佳憂懸不去心君等前所論事想必及謝生未還何爾進退不可解吾当書問也」

最後の書展にして初めて自宅で清書をしました。来年度は後輩たちが心置きなく練習できる環境が整うよう祈るばかりです。

思えば〆切の度に徹夜で先輩・後輩、そして同期たちと品評しあった日々は私にとって青春そのものでした。書道部での出会いに感謝を込めて。



15

鵜川大輝　四回生

創作　行草書　『四言詩　贈秀才入軍より』　二尺×八尺



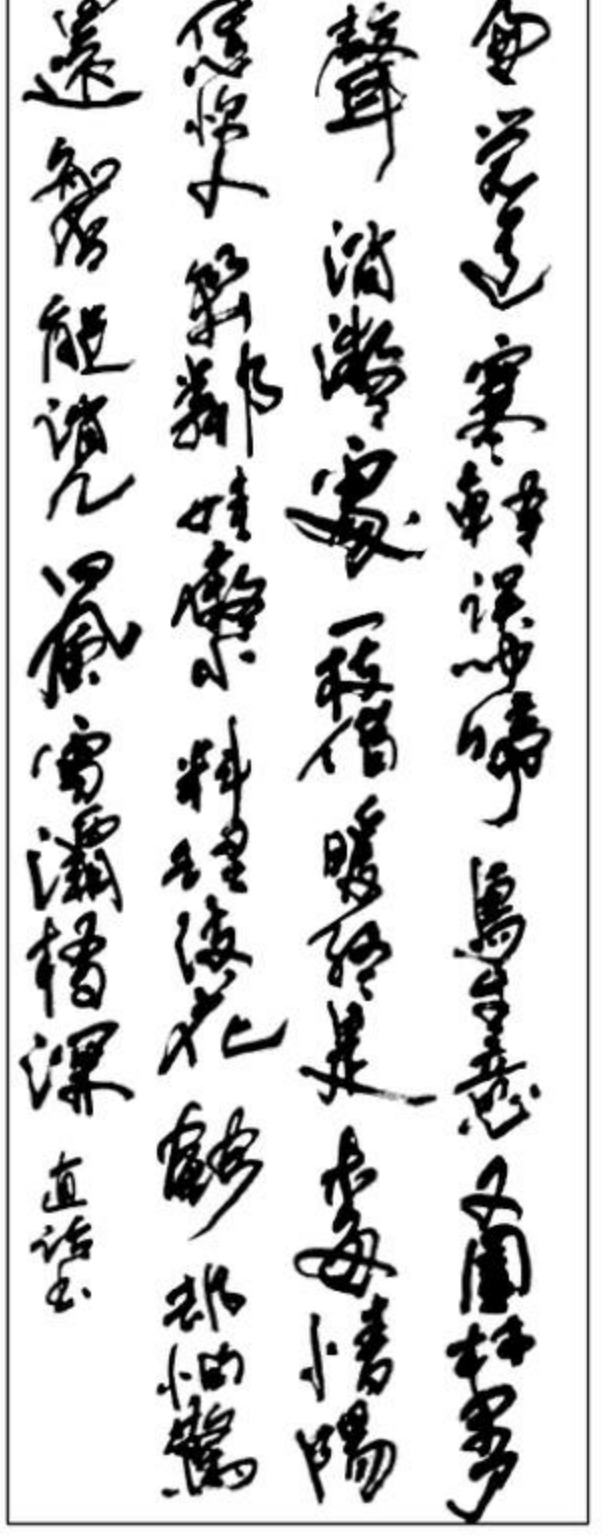
「閑夜肅清、朗月照軒。微風動褂、組帳高褰。旨酒盈樽、莫與交歡。鳴琴在御、誰與鼓彈。仰慕同趣、其馨若蘭。佳人不在、能不永歎。」

家を墨で汚さないように、けれど作品が小さく纏まってしまわないように。どうしたらいいんでしょうか。

16

覚道直治　修士一回生

創作　行草書　『満庭芳　小春』　二尺×八尺



「晴皎霜花曉熔冰羽開簾……風雪灞桥深」

僕の苗字がどこかにあるんで探してみてください。

17

坂本和歌子　四回生

創作　行草書　『博學而篤志』　半切二分の一

「博學而篤志」

今年で卒業。大学四年間で様々な人や経験から、入学時には想像できなかった程沢山のことを学びました。



18

松尾有輝也　四回生

創作　行草書　『岐阜竹枝一節』　半切横

「香魚欲上桃花落三十六湾春水来」

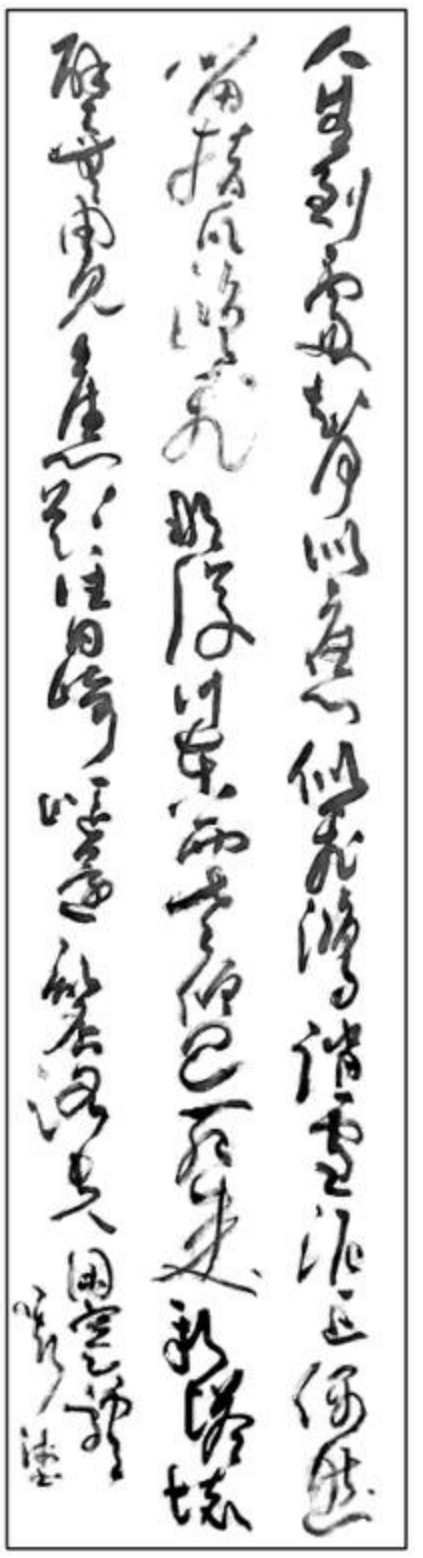
行間のバランスを取るのが難しかったです。



19　戸髙海　一回生
創作　草書　『蘇軾詩』　半切

「人生到處知何似　應似飛鴻踏雪泥　泥上偶然留指爪　鴻飛那復計東西　老僧已死成新塔　壞壁無由見舊題　往日崎嶇還記否　路長人困蹇驢嘶」

変化に富みつつも、破綻しないように筆脈を通すように努力しました。おもしろいと思ってもらえると嬉しいです。



20　内田鈴菜　三回生
臨書　草書　懐素『草書千字文』　半切

「寒來暑往。秋収冬藏。玉餘成律歳呂調陽。」

昨年度の夏に楷書、冬に行書と書いてきたので今回は草書に挑戦しました。「寒」や「冬」など季節を感じられるような部分を選んでみました。



21　安田直記　四回生
臨書　草書　傅山『野花如雪七言詩軸』　半切

「野花如雪……」

久々に筆を持ちました。あっという間に四回生も終わりです…



22

栗原瑞樹　二回生

臨書　隷書　金農『金冬心隷書冊』　半切

「如白人雖鬚髪……」

かわいい見た目に対して書くのはだいぶ大変でした。全紙への道のりは長そうです…



23

益満朋佳　二回生

臨書　隷書　楊峴『漢陳文範碑』　半切

不明

賃貸でヒヤヒヤしながら書きました



24

柴田達哉　三回生

創作　隷書　『九辯』　半切

「悲哉秋之爲氣也蕭瑟兮草木搖落而變衰憭慄兮若在遠行登山臨水兮送將歸」

悲しいンゴねぇ～。



25

市川拓真　四回生

創作　隷書　『清風高節』　65cm×45cm

「清風高節風竹相呑草木自馨」

家の裏の竹林を見てこの言葉を書きたいと思いました。竹のようにどんな困難にも折れずに立ち上がれる男になりたいです。



26

坂崎亜実　三回生

臨書　隷書　楊峴『古四種巻』　半切二連横

「先生諱泰。字林宗。大原介休人也。……（略）」

右上がりの線にならないように気をつけていたら、いつの間にか右下がりになっていました。癖って怖いですね。



27

豊留まり　三回生

臨書　木簡　尉史堅『掾譚』　半切

「失路不遠悔過遷臧至今不晩盜烏潰然」

前回に続き木簡です。先日授業で偶然、竹簡についての説明があり、若干テンションが上がりました。



28

穴田小恵　三回生
創作　調和体　『笑うように生きる』　半切二分の一横

「生　人はわらうように生きる」

いかなる時にも、何か自分なりの楽しみ方を見つけて自然と笑顔がこぼれるような日々を送れたら素敵だなという思いを込め書きました。皆さんの人生がより豊かなものになりますように。

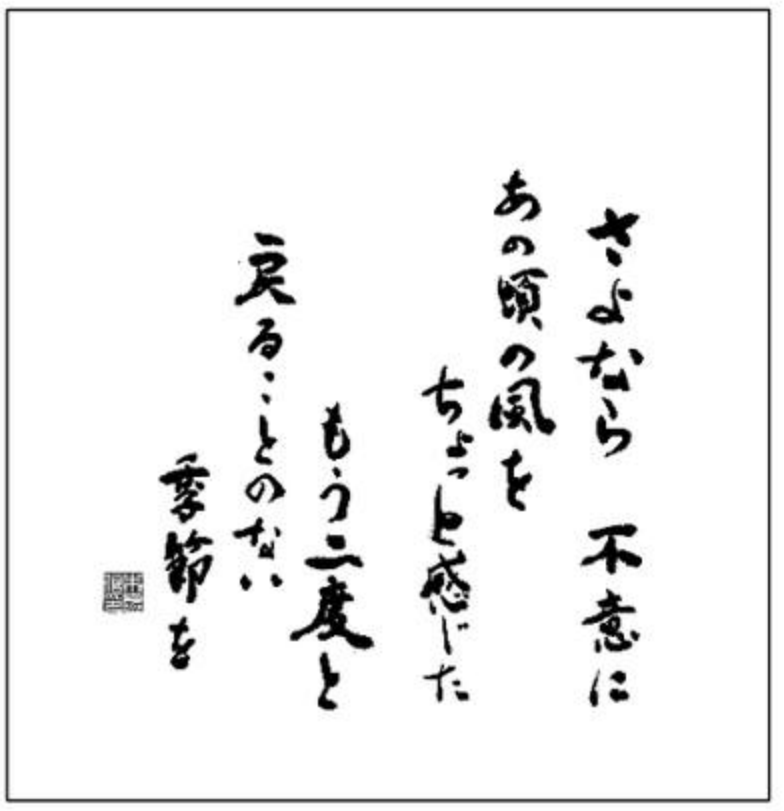


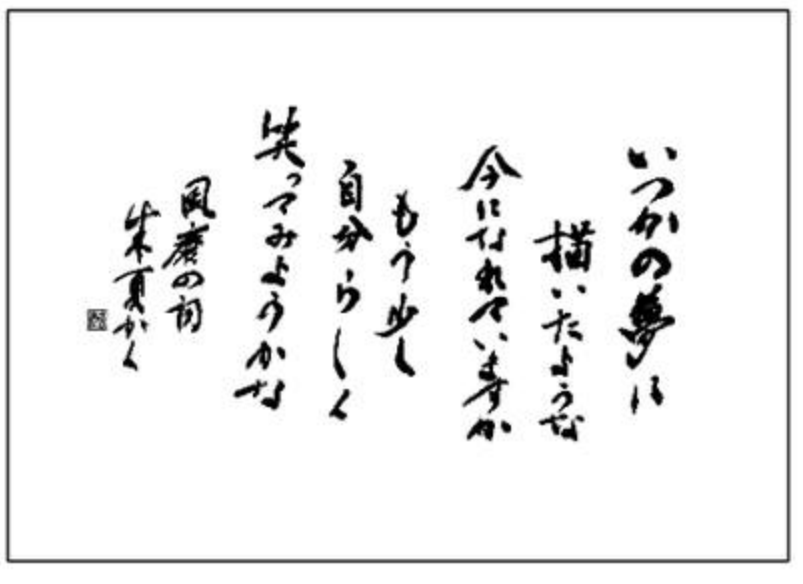
29

阿部朱夏　修士二回生
創作　調和体　『Cocoa』　40cm×40cm＋27cm×40cm　二連

「（略）……いつかの夢に描いたような今になれていますか……（略）」

高校生の私が思い描いた大学生活とはだいぶ違った六年間だったかもしれませんが、予定調和よりも予想外の方が楽しいですよね。未だ充分な大人ではないけれど、様々な出逢いや縁に感謝しつつ、これからブレないつよいおとなになっていきたいです。





30

吉田凌祐　四回生
創作　かな　『冬景色』　半切

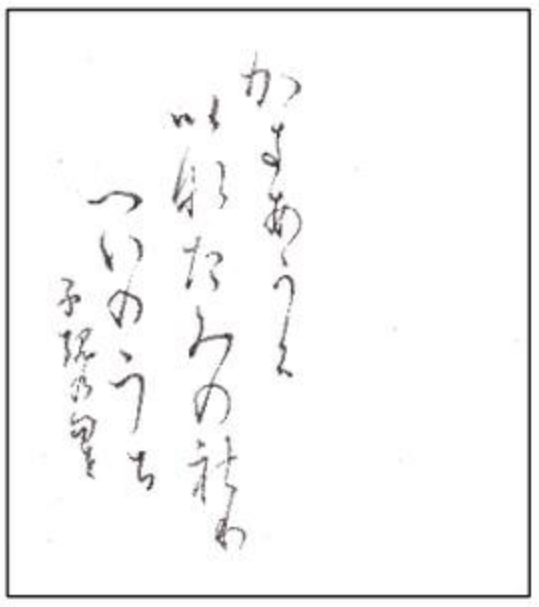
「こたつからみゆるやはしのひとどおり」
京都の橋の上も、今年は人が少なかったですね。外国語ばかりが聞こえていて賑やかだった橋も、すんなりと通れるようになって、良かったのか、悪かったのか。皆様、去りゆく年はいかがでしたか。来る年は橋も賑わうように、自宅から見守っております。



31

吉田凌祐　四回生
創作　かな・行草書　『和漢味比べ』　豆色紙（12cm×13.5cm）　二連

「（かな）かきあかくいなだみのれりへいのうち
（行草）霜落荊門江樹空　布帆無恙掛秋風　此行不為鱸魚鱠　自愛名山入剡中」
かなと漢字の小作品二つです。かなは子規の句、漢詩は李白「秋下荊門」です。両方とも秋の歌ですが、実りの秋に考えたので許してください。ちなみに、家の庭で秋には柿と栗と山女（あけび）が取れます。今年もおいしくいただきました。





32

勝野初紀　五回生・中村勇真　修士二回生
創作　行草書　『静動』　100cm×120cm

「静動」
静に動あり
動に静あり



【顧問・部員紹介】

顧問：京都大学大学院文学研究科准教授　成田健太郎
京都大学附属図書館　図書館企画掛主任　行友三輪子
技術顧問：日展会友　書家　寺本蒼玄

一回生

法　石田あかり
京女　大西沙穂
理　倉橋あい
文　髙石京花
農　戸髙海
理　乗杉玲壽
工　堀田千有希
理　凌楡凱

二回生

医　石田七彩
農　乾未樹
文　大橋明日香
医　片岡美緒
医　釜田弘一朗
法　栗原瑞樹
医　近藤毅造
工　佐藤有子
京女　鈴木翔子
法　関美乃里
文　豊留まり
経済　益満朋佳
農　松岡柚花

三回生

理　秋友祥香
農　穴田小恵
総人　伊藤迅亮
工　稲葉皓信
農　岩田恵理子
総人　内田鈴菜
農　小笠原萌葉
医　岸根葵葉
工　北田綾
工　坂崎亜実
農　柴田達哉
文　杉山太郎
工　鈴木和樹
工　豊永嵩晴
法　中村紀保子
工　野口直哉
農　服部佳乃子
総人　宮本真之介
工　渡部裕貴

四回生

文　石本森羅
工　市川拓真
工　鵜川大輝
文　牛田聡実
法　大橋葵
法　坂本和歌子
文　寺田奈津美
同志社　中岡大吉
工　中林亮
同志社　野田恵子
工　松尾有輝也
京女　村上友香
工　安田直記
理　吉田凌祐

五回生

京先　勝野初紀
法　金岡杏祐

修士一回生

法　安達光寿
工　覚道直治
工　金祺民
人環　邢書禹
法　建部壮一郎
理　中村勇真
工　一二暉
神戸　森ちひろ

修士二回生

工　阿部朱夏
医　今村朱里
工　郡健一郎
農　小林由佳
文　佐武千寛
工　角裕介
文　仲村康太郎
農　長谷佳菜子
理　原誠人実
工　原田拓子
法　平野晶

博士一回生

人環　深谷拓未

博士二回生

理　上西隆太
農　釜阪紘平

博士課程修了

地環　藤井基弘

書道用品と表装・額装 書遊

充実のECショップ 書遊Online 書遊 検索
ポイントがとってもお得なオンラインショップ https://shoyu-net.jp/

書遊奈良本店 〒630-8243 奈良市今辻子町３７
TEL.0742-23-5547／FAX.0742-20-2261
書遊大阪店 〒553-0003 大阪市福島区福島 5-14-6 クレセントビル 2F
TEL.06-6458-8808／FAX.06-6456-4077
書遊京都店 〒604-8132 京都市中京区高倉通三条下る丸屋町 164
TEL.075-251-7800／FAX.075-251-7802

LINE 公式アカウント
お得なクーポン、SALE情報の配信！
道具の豆知識を共有！得すること間違いなし。
「友だち追加」で QRコードを選択！ 書道が楽しくなる！

京都・書道用具店
松楳園
一般用の書道道具からプロ専用の用具まで幅広く取り扱いしております。小売もしておりますので、お気軽にお越し下さい。

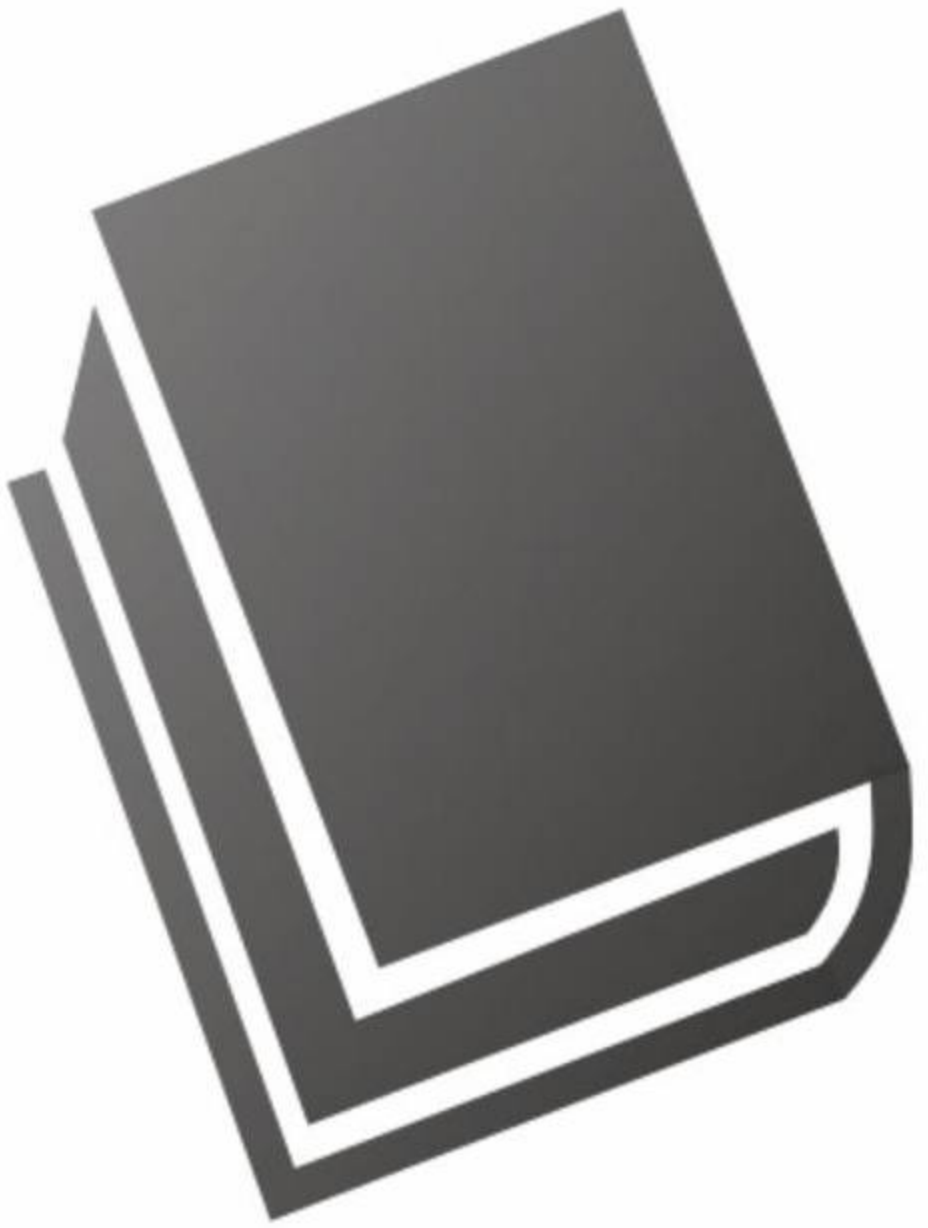
取扱商品
書道用具全般
毛筆・松楳園製
毛筆・中国製
墨・墨液 各種
紙・漢字・かな用
硯・下敷・印材
他・書道小物
水墨画用具

京都市下京区柳馬場通仏光寺下る万里小路町164
TEL 075-351-6380 FAX 075-361-8006
http://:www.shoubaien.co.jp 定休日(日・祝日)

文房四寶（筆・墨・硯・紙）和紙工芸品 書画作品
書芸サロン 賛交（さんこう）
二条店 〒604-0931 京都市中京区二条通河原町西入北側
TEL・FAX／075－222－0390
E-mail：info@shoga-sankou.co.jp
株式会社 賛交社 本社 〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町27
TEL／075－572－8964 FAX／075－572－8905

ご覧いただきありがとうございました。

京都大学書道部



This book was
made by the LeME